



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている」

聖書(ローマ書7章19節)

牧師 河合裕志

パウロはここで自分の内面を観察してこのように言っている。見事二つに引き裂かれてしまった自分。こうも述べる。「わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです」(15節)。一体どうなっているんだ、わたしは。自分で自分を思うように操縦できない。実にもどかしい。はがゆい。

たとえばモーセの十戒に「むさぼるな」とある。「隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない」(出エジプト記20章17節)。こう命じられて、ハイ、そうですか、ではそうします、と素直に従うことが出来れば世話ない。しかし現実はその簡単ではない。そうしたいのだけれど、むさぼりの思いがわいて来る。時に一線を越してしまう。万事がこんな次第。

「望む善は行わず、望まない悪を行っている」。なぜそうなのか。意志薄弱のせいなのか。それは「わたしの中にすんでいる罪なのです」と言って罪のせいにした(17節)。私の内には「罪の法則」と「心の法則」が戦っているのだと。心の法則は善を望む私。この両者の戦争はどちらに軍配が上がるのか。残念ながらそれは罪側であって心

側はそのとりこ(捕虜)になってしまっている。罪側が大手をふって闊歩している。そのような情景をパウロは内面に見た。

そこから彼はこう叫ばざるを得なかった。「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか」(24節)。誰も惨めな人間にはなりたくない。食う物もないといった貧乏は味わいたくない。ただここで言う惨めさは「望む善は行わず、望まない悪を行っている」人間について言われている。もし望む善は行い、望まない悪は行わないということであれば個人も世界も平和になるというもの。

この罪の法則のとりこになっている人間の救い、解放はどこにある。「わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝します」とパウロはキリストに結びつけた(25節)。①キリストの十字架によって罪の赦しを受ける。②復活したキリストの霊(聖霊)を内に宿す。聖霊の助けにより少しずつ罪の法則の追い出しにかかり心の法則を強化して行く。ここに人間の希望、世界の希望がある。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時